

（参考例—2）

色紙でコラージュ制作

京花紙（おはながみ）を重ねながらニスで固め、周囲を切り取ってモビールを制作した際、切り取られた部位の素材が余りました。余った部位とはいえ、この素材がとても魅力的で、子どもたちからの人気が高かったため、この素材を活用するねらいからコラージュの制作を行いました。

コラージュを制作する時間が余った児童は、この上からドリップングやスタンピングなど、これまで授業の中で行った技法をもう一度行いました。それぞれ自分が素敵だと思う作品作りを行いました。

「コラージュとは？」

絵画表現におけるコラージュとは、フランス語の「糊付け」に由来する、新聞や布きれなどを貼りあわせた技法を表します。コラージュを用いた身近な表現としては、雑誌などの印刷物や写真を組み合わせたフォトコラージュがあります。

11. おわりに

本題材のまとめとして、授業の終わりにはお互いの「本」を鑑賞し、発表してみましょう。そして、偶然出来た形の面白さを見つけてみましょう。時数に余裕があれば、「本」の物語を別紙に書き、お互いの本を「見て」「読む」ことを行うのも楽しいでしょう。

本題材の対象年齢は、小学校2年生以上と設定しました。それは、細かな箇所での指先の動作を考えたためですが、提案の方法によって、どの学年であっても授業は可能であると考えました。

本題材開発にあたり、新名佐和子氏には絵本作家の視点からの助言を頂きました。児童図書（特に絵本）には正方形の形が多く、本を閉じて置いたときの形の安定感と、本をひらいた際の空間の広がりやの指摘は授業者の視点にはないものでした。新名氏の提案により、児童に配布する画用紙の縦横比を1：2に設定し、完成した絵本が正方形になるように計画しました。

オリジナルの本を手にした子どもたちは、本を抱えて教室へ戻っていきました。彼らが帰宅し、家族や友人とともに、あるいはひとりで本をふたたびひらいた際、おはなしと共に造形活動の思い出が膨らむことを願っています。彼らの心内のどこか片隅に、植物との造形活動の面白さが記憶として留まり、楽しい造形活動の記憶の蓄積が彼らの日常を豊かなものにすることが、本題材のねらいの核心であると筆者は考えています。



▲児童作品から：素材の大きさを工夫し、アジサイの花のような作品になった。



▲児童作品から：コラージュの上からドリップングを行い、躍動感あふれる作品になった。



▲参考写真：アンリ・マティス La Perruche et la Sirène, 1952年

葉っぱの世界に 飛び込んでみよう

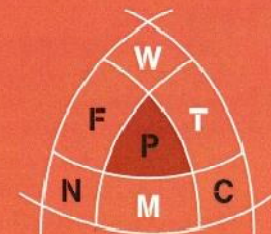
■ 統合学習プログラム遊戯（P）

植物と親しむ造形活動は感得（F）、自然誌（N）、文化誌（C）を含む学習教材で、画用紙や絵画用具などを用意する。

関根史恵（東京学芸大学連合大学院芸術系教育講座）

協力：新名佐和子（絵本作家）

P2



index

1. 活動目的とねらい
2. 活動の内容と方法
3. 指導計画
4. 材料・用具
5. 「スタンピング」とは？
6. 葉っぱを探しに出かけよう
7. 葉っぱでスタンプごっこをしてみよう
8. ともだちの作品をのぞいてみよう
9. こどもたちの声から
10. 作品を「絵本」にする
11. おわりに

ひとことで「葉っぱ」といっても、植物によってさまざまなかたちがあります。「みる」と同時に「つくる」ことで、葉をよりよく見て見ましょう。そして、葉を使って、自分だけの本をつくってみましょう。葉の造形から、その自分だけの世界をつくり、じっくり味わってみましょう。

1. 活動目的とねらい

本活動では、「鑑賞」と「制作」を同時に行い、「みる」と「つくる」ことの一体化を試みます。制作した作品は最終段階で貼り合わせ、世界にひとつだけの本を制作します。本を開いたときに自分の世界が手の中で広がる様子を子どもたちに味わってほしいという願いが込められています。

2. 活動の内容と方法

本時では、校庭で採取した葉っぱを用いた画面作りを行います。指導書などでは中学校での登場が多いモダンテクニックですが、複雑な技術を必要としなく、小学校低学年の児童でも楽しみながら活動できます。本時では「スタンピング」という技法を使った制作を行います。

3. 指導計画

- ① 遊びから表現活動へ・・・90分×技法の数
モダンテクニックを用いた平面作品の制作
- ②対象は小学校2年生以上。
このモジュールの扱いは全5回の内の初回(45分×2時間/90分)
授業実施校：筑波大学附属小学校
- ③表現活動から作品化へ・・・90分
- i) 作品数と種類が集まった後に、平面作品の背中を糊で貼り合わせ、本の形に整えます。
- ii) 「本」の登場人物となる葉の制作。
- iii) 葉を糸で「本」の背中に糊付けします。作品の外側を飾るようにおもて表紙と裏表紙を新たに画用紙で描き、「本」の題名を記入。それを本体に糊付けし、作品の完成です。
- ④作品を鑑賞し、「見る」を深める

4. 材料・用具

本単元では、以下の道具を使用します。
これらは使用する頻度が高いため、個人の物を用意することが望ましいです。

- ・画用紙
- ・水彩絵の具一式
- ・はさみ
- ・糊

本稿で紹介する題材では、上記の道具の他に以下の素材等を用います。

- ・校庭で採取した葉っぱ
- ・雑巾(葉っぱを洗う際に水気をふきとるため)

注意点：画用紙の画面の縦横比を1：2にあらかじめ裁断しておく、画用紙を貼り合わせ本にした際に正方形の形になり、本にしたときに形の安定感が出ます。

5. 「スタンピング」とは？

本時では、「スタンピング」と呼ばれる技法が活動の中心となります。

「スタンピング」とは、モダンテクニックのひとつで、版になるものを用意し、それを画面に押し当ててつくる表現技法のことです。

今回は葉っぱの造形美に着目し、葉を版として使用します。このほかにもスポンジや消しゴム、綿棒、不要になった使い古した物や指の指紋などを使っても行うことが可能な、普段の私たちの生活に身近な技法であると言えます。この技法の名前を知らなくても、子どもの時に行った経験を持つかたは少なくないのではないのでしょうか。

モダンテクニックの魅力は、偶発的に生まれた痕跡を表現としてとらえ、その良さを見つけ、表現として認めることです。絵画など平面作品を制作するときは、そこには制作者の意図や技術などが反映されます。しかしながら、今回行った「スタンピング」や絵の具を画面に落とす「ドリッピング」、水面に垂らしたインクを紙で吸い取る「マーブリング」、物体の上に紙を乗せ、鉛筆等で擦ってその凹凸を写し取る「フロタージュ」など、モダンテクニックで得られた表現では、制作者の意図よりも「偶然発生した表現」や動作の痕跡を記録する要素が強く、制作者の「無意識」が画面に反映されます。

6. 葉っぱを探しに出かけよう

はじめに、校庭へ葉っぱをさがしに出かけてみましょう。こどもたちが自分のお気に入りのひと葉を探せることがポイントです。種類はどんな葉でも構いません。落葉樹、広葉樹、針葉樹など、形の面白さに注目し、お気に入りの一枚を探してもらいます。もちろん、木の葉でなく、草の葉でもよいでしょう。

7. 葉っぱでスタンプごっこをしてみよう

スタンプングでは、採取した葉の表面に水彩絵の具を塗り、それを画用紙に押し当て、スタンプのように素材を使用します。

葉の表面の凹凸を写し取りながら、画面の全体を見て色彩を変化させたり、あるいは繰り返しスタンプングを行うことで、色彩と造形によるリズムを表現してみましょう。

同じ葉を繰り返し使用し、途中で色を変える際は、前の色を洗い流すか拭き取るなどして葉を用います。

また、同じ葉でも、表と裏では紙に写し取った際に異なる表情が表れます。

一枚の葉をもとに、多様な表情を探してみましょう。

8. ともだちの作品をのぞいてみよう

ともだちの作品をのぞいてみましょう。

このときに、

- ・どんな葉を選んだのかな？
- ・どんな色を選んだのかな？
- ・スタンプングをしながらどのように葉を画用紙に並べたのかな？

など、自分の作品とともだちの作品の良さを見つけてみましょう。そして、すてきな、と思う葉っぱがあれば、友達に葉を借りてみると楽しさがより広がるかもしれません。



▲お気に入りの一枚を見つけてみましょう



▲児童作品より：一枚の葉から、風景がうまれた様子



▲児童作品より：それぞれの葉の美しさを見つけてみましょう。



▲葉の種類だけでなく、絵の具の水の量や、葉の表・裏によって表情がうまれます。同じ葉も繰り返しスタンプングすることで、表現に表情が生まれます。

9. こどもたちの声から

葉っぱと一緒に過ごしたことで、葉っぱはこどもたちにとって少しだけ特別な存在になったようでした。

男子児童A:

(びわの葉を選んで)

「すべすべしてきもちいい！」

・・・びわの葉の表面には、柔らかいふ毛が生えているのを見つけました。

男子児童B:

(葉を二度目に使用する際、葉を水道で洗い絵の具を落としていたら、葉が破けてしまいました。)

「かわいそう！」

・・・木に留まっているときと異なり、手で触れることで葉は簡単に破けてしまうことを見つけました。

女子児童C:

(授業が終わり、道具を片付けました)

「この葉っぱ、持って帰ってもいい？」

・・・葉に愛着が湧いたようでした。

女子児童D:

「先生、この葉っぱ図工室にあげる！」

・・・他のクラスの児童がこの葉を使ってもいいと、使用した葉を図工室に寄贈してくれました。

10. 作品を「絵本」にする

造形活動のまとめとして、本題材では制作した作品を最終段階で貼り合わせ、作品を自分自身の手によって一冊の本にまとめました。本を開いたときに自分の世界が手の中で広がる様子を子どもたちに味わってほしいと考え、作品を絵本化する際に、登場人物を葉として制作しました。この葉によって、子どもたちは本の中を自在に動き、絵をみるときの視点がひろがりました。

本題材では、先に紹介したふたつのモダンテクニックのほか、コラージュやスクリブル、ドリッピングなどの近代技法による多様な平面作品の制作も行いました。作品を絵本化する際には、同じ規格で制作した平面作品の種類が豊富であればあるほど、絵本の質と量はともに充実した物となります。作り貯めておくと、鑑賞時の楽しさがより深まるでしょう。

次頁以降でこれらの題材を参考として紹介します。



▲児童作品より：毛糸の帽子が風に飛んで冒険する絵本が生まれました。葉っぱの世界に辿り着いた毛糸の帽子は、葉と一緒に風のダンスを踊ります。



▲児童作品より：コラージュとスタンプングを同時に行った作品。一枚の葉から造形的なリズムが生まれ、葉がその様子を眺めています。

[参考] そのほかのモダンテクニック

●題材例

植物との関わりを目指す活動へ向けて、造形教育からの提案を本稿で行いました。

本題材では自分の本を制作することがもう一つの大きな目的であったため、葉を用いた造形活動のほかに、モダンテクニックを用いた他の作品の制作をいくつか行いました。

それぞれ、「みんなと一緒に協力して制作する」、また「ひとりでじっくり制作する」ことがテーマになっています。これらの活動を以下にご紹介します。活動時間はすべて90分（45分×2時間）です。

(参考例—1)

40 線譜と絵の具の音符のドリッピング

本時では、40枚の画用紙をつなぎ、一枚の長い紙から活動を始めました。

児童には好きな色のサインペンを1本選んでもらい、長い画用紙の端から端へと、ひとり一本の長い線を描きます。そして、40本の線が描かれた画用紙を切り離して配ります。

つぎに、児童と一緒に音楽を聴きました。音楽から連想するイメージを言葉に出し、連想ゲームをします。そして、音の粒を雨に見立て、さきほどの40本の線が描かれた画用紙の上に雨を降らし、音の世界を再現しました。



▲絵の具を画面に垂らしたほか、音楽記号を画面に書き込んだ児童の作品。



▲失敗から生まれた絵の具の水溜まりが、効果的な表現として絵本で使われます。

「ドリッピング」とは？

テーブルまたは床に置いた画面の上に絵の具を染みこませた筆をかざし、絵の具を飛び散らせるように画面に着色する技法を「ドリッピング」と呼びます。抽象表現主義を代表する20世紀のアメリカの画家、ジャクソン・ポロック（1912—1956年）によって開発されました。

これ以前の一般的な着色の方法は、画面に筆を接着していたため、画面には筆跡や筆の動いた痕跡（ストローク）が残るものが主流でした。

ドリッピングでは、絵の具の玉を画面に落とす際、絵の具の粘度や量、振り落とす際の腕のストロークなどによって、ある程度の飛沫をコントロールすることは可能です。しかしながら、画面上での表現は偶発性によるものが多いと言われています。



▲参考写真：ジャクソン・ポロック Number 1A, 1948